

平成30年度 緑区地域活性化支援事業 補助金交付団体一覧

I 地域づくり活動支援コース

No	団体名	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	期待する効果・成果	交付決定額(円)	審査委員会コメント
1	みずき・かつら街おたすけ隊	助け合い家事援助事業	みずき・かつら街自治会は、設立後35年が経過し、高齢者の多い自治会となっている。ひとり暮らしや高齢者のみの世帯が多くなり、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう必要な支援を行う。	自治会内の高齢者が日常生活で困っていることをお手伝いする。 ・庭掃除(雑草除去) ・電球、蛍光灯の交換 ・障子、網戸の張替 ・部屋、浴槽の掃除 ・その他上記に準ずる作業 自治会員が参加するイベント(夏祭り、体育祭等)を盛り上げるために協力していく。	みずき・かつら街自治会エリア	年々高齢化が進んでいくために、この活動には終わりが無く、自治会の活動事業の一つとして取り入れ、次の世代に順次引き継いでもらい、高齢者が安心して暮らせることを望む。	50,000	今後の高齢化を踏まえ、地域住民による共助の取り組みにより、地域のニーズに沿った成果の見えやすい活動であることを評価します。 事業支援終了後も自立した活動を継続していけるよう、依頼者からの実費負担を求めるとともに、収入源の確保に努めるとともに、協力員の拡充と地域内の絆がより深まることを期待します。
2	カフェ たんぽぽ	認知症&ケアラースカフェ	国の認知症施策である新オレンジプランの施策の一つである認知症カフェ、ケアラースカフェの実施、運営を行う。認知症の人を介護する人も、日頃の思いや介護に関する情報交換など気兼ねなく参加できる場所づくりを目指す。悩みを抱える人の孤立を防いだり、より良い介護のための情報交換や情報を発信する場所を目指す。	オレンジカフェ(認知症カフェ、ケアラースカフェ)を月2回開催する。認知症、介護に関する情報交換や悩みや愚痴の言える息抜きの場所づくり。専門職の協力を得て、専門職としてのアドバイスを伝える機会も作っていく。	土気子どもルーム	地域の活動として根付き、誰でも気軽に参加できるような場所となる事。	50,000	認知症当事者とケアする方の支援のための場を継続して設定し、一定の参加が得られていることを評価します。 支援終了後も事業継続のために利用者負担を増額するなど収入源の確保に努めるとともに、認知症になっても住み慣れた地域で暮らしを続けることができ、他地域にも同じような事業が広がることを期待します。
3	土気絵本の会	「土気絵本の会」活動事業	・読書ボランティア活動に興味を持って参加してくれる方を増やし、読書推進活動を活発にする。 ・現在、学校等で「絵本の読み聞かせ」や「昔話」を実施している人達のスキルアップを図る。 ・地域の人達を年齢を問わず絵本の世界に誘い、子どもから大人まで楽しめる事を伝える。 ・これまでの活動で会員だけの力の限界を感じ、第一人者の方の力を借りて今後の活動に繋げる。	・定例会 テーマに沿って絵本の世界を楽しむ会。 ・東京子ども図書館「かつら文庫」見学研修会 ・講師を招いての「おはなし会・絵本の読み聞かせの研修」	土気公民館 緑区ボランティア活動室 土気中央町内会館 菟生町内会館	・ボランティアのスキルアップ勉強会で絵本の知識を深め、子どもと本を繋げる活動に関わる人が育ってほしい。 ・地域の高齢者に、絵本の喜びを一緒に味わい、図書館で懐かしい本と出会い、楽しんでほしい。 ・絵本、昔話を通して、読書の喜びを多くの人に伝えたい。	50,000	地域の子供達に「絵本」を通して読み聞かせの魅力伝える取り組みが地域づくりと親睦につながっていることを評価します。 今後、幅広い世代に絵本の楽しさを広めるとともに、絵本の良さを幼児期から感じることで、感受性豊かな子供が育つことを期待します。
4	おゆみ野アーカイブ	まるごとおゆみ野	・おゆみ野のまちびらきから30余年経ち、縄文時代の貴重な文化遺産があるにも関わらず、一部のみにしか知られていない。 ・地域を知る手立てとして、おゆみ野の歴史をWEB上に集め、発信することにより、郷土愛を育む。 ・新住民となった人々にとっておゆみ野の今を知る手立てとしての情報を収集・発信し、まちづくりに寄与する。	・情報ポータル充実を図る(カテゴリーの見直し、編集者の募集、記事の書き方講習会)。 ・おゆみ野の歴史講座の開催と記録掲載 ・地域のあらゆる情報発信をする場としてのWEBの周知を図る。 ・地域活動団体とのネットワークを図り、情報提供を依頼する。	おゆみ野地域	・多くの人が住むまちおゆみ野に関心を持ち、情報の発信者として提供者にもなり、WEB上で新たな人のつながりができると良い。 ・ポータルサイトの情報から地域住民が地域の活動に関わるきっかけ作りができると良い。 ・これからのまちづくりにおける課題等を地域住民によって解決していく道を探る手立てとしたい。	180,000	多様な情報を網羅したサイトを活用しておゆみ野の魅力を発信し、地域ネットワークを構築しようとする取り組みを評価します。 今後とも、様々な情報の収集・発信をするとともに、サイトへの訪問者(閲覧)を増やす工夫をされることを期待します。
5	誉田町1丁目グリーンの会「防犯パトロール隊」	防犯パトロール・見守り活動	・高齢化の進展により、一人暮らしや高齢者世帯が増大しており、生活に不安を感じている人がいる。 ・特に、高齢者が被害を受ける事件も多発していること、大震災等の災害も大きな不安要因である。 ・住み慣れたところでいつまでも住めるよう、地域の人たちがお互いに助け合う。	・防犯パトロール ・高齢者等の見守り、声掛け運動 ・会員の健康保持、連帯感の醸成 ・地域住民へのPR活動	誉田町1丁目町内会区域及び周辺	・地域全員が防犯意識を持ち、不審者等が近寄らない街にする。 ・困ったことがあったら、周りの人に気軽に相談できるようにする。	50,000	高齢化の進んでいる地域において、地域住民自らが安全で安心して住み続けられる街をつくるために意欲的に取り組もうとしていることを評価します。 今後、活動を継続していく中で、活動者が増え、地域の安心感・連帯感が高まり、地域の絆がより深まっていくことを期待します。
6	みどりのかふえ	みどりのかふえ	・高齢者がいつまでも自立でき、QOLの向上を推進するために健康に役立つ情報、講習の場としての居場所作りを行う。 ・障害者、軽度認知症等の家族を含む居場所を開設する。 ・軽度認知症及び地域のシニアが内面的、精神的な疾患予防の効果期待した「おゆみ野歌声喫茶」事業を定期的に行う。 ・みどりのかふえ運営を介して、地域のボランティア団体との繋がるシステムを構築する。 ・シニアの幅広い嗜好に答えるために「懐かしの映画館」事業を行う。 ・通所場所の確保として地域企業と協働する仕組み作り	・高齢者がいつまでも自立でき、QOLの向上を推進するために健康に役立つ情報、講習の場としての居場所作りを行う。 ・障害者、軽度認知症等の家族を含む居場所を開設する。 ・軽度認知症及び地域のシニアが内面的、精神的な疾患予防の効果期待した「おゆみ野歌声喫茶」事業を定期的に行う。 ・みどりのかふえ運営を介して、地域のボランティア団体との繋がるシステムを構築する。 ・シニアの幅広い嗜好に答えるために「懐かしの映画館」事業を行う。 ・通所場所の確保として地域企業と協働する仕組み作り	食事処とき田(おゆみ野3丁目)	・高齢社会に備え、自らの健康は自らの責任で果たすよう実践活動を通して啓蒙するとともに、併せてコミュニティーが地域の支え合いの文化に少しでも影響を及ぼし発展して欲しい。 ・地域のボランティアグループが地域の同じ課題に向かってそれぞれの活動の中で緩く繋がる文化が定着してほしいと思う。	200,000	超高齢化社会を迎え、元気なシニアが支援を必要とするシニアを支えるという事業内容であり、店舗の定休日を拠点場所として利用するなど地元協力のもと創意工夫を図っていることを評価します。 今後、活動を継続することにより、参加者がより増え、地域の輪が広がっていくことを期待します。
7	かがやきっ子食堂	地域の子どもが「安心できる居場所」づくり事業	・緑区における「孤食」を無くし、地域で子ども達が安心して集える場所を作る。 ・子ども達が生きやすい社会づくりを地域から興すことを目指す。 ・食卓を共にするなかで、互いに抱えている家庭、経済的な「困りごと」を発見できる場として機能し、その解決のために考えられる関係づくりをする。	・月に1度、「子どもがひとりでも来られる食堂」を開催する。 ・安い料金(100円)で夕食を提供し、大勢で食卓を囲む楽しさを感じてもらおう。 ・給食が無い夏休みなどにはランチタイムでの食堂開催。	おゆみ野キリスト教会誉田チャペル	・地域での「孤食」がなくなること。 ・様々な意味で困窮している子どもや家庭に、行政等から必要な支援が入り、困った時に頼れる場所が出来る事。 ・地域住民同士がつながり、隣近所、地域の子ども達に目を向けられるようになり、地域全体で子ども達の育ちを見守る事。	200,000	緑区内の子ども食堂のパイオニアとして子供が安心して集う場の創出を図っており、参加者数も着実に増え、地域に活動が定着してきていることを評価します。 今後とも、地域団体等との連携を図るとともに、同様事業が他地域にも広がることを期待します。
8	かかしアート実行委員会	かかしアートまつり	・誉田地域内の子供たちを中心に「かかしアートまつり」を開催し、芸術文化の普及と親子・有志・町内の皆さんとの交流の場とする。 ・地域内の谷津水田の早苗から稲穂の刈り取りの期間中開催し、「かかし」の特徴と自然の背景が移り変わる「アートの感覚」を堪能しつつ、散歩する方々に、話題と散歩活動の活性化と充実を図る。 ・コミュニティの機会を増やし、日常的な見守り活動などのボランティア活動の環境をつくる。	・「かかし」を親子で制作する(誉田小、誉田東小、誉田中美術部、幼稚園、保育園) ・「かかし」を設置する(地域内の谷津水田沿いの散歩コース)。 ・散歩コース内のかかしの芸術性を楽しんでもらい、歩く楽しさを提供する。 ・関係者に応援、協力の声掛け、活動を通じ、ボランティア活動の輪を広げる。 ・様々なセミナーや研修会等に参加し、ボランティア活動の知識を高める。	誉田中学校区内	・芸術文化的感性の向上と自然の大切さを感じる機会とする。 ・親子と高齢者が町の中で共に過ごし、日々支え合いの環境をつくる。 ・町の中で健全な話題づくり、散歩活動等の活性化と散歩コースの充実を図る。 ・町内自治会会員の脱退が増える中、全世帯参加と任意参加項目を認め合い、参加代を率先で、喜び合える支え合うまちづくりの実践。	50,000	田んぼという地域資源を活用して地域の活性化、子供達の地域参加等を促す取り組みが自然の大切さやふるさと意識の醸成につながることを評価します。 今後、「かかしアートまつり」以外のイベントを企画するなど活動の発展・継続を期待します。

9	「がんと一く」の会	「がんと一く」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん患者、家族、遺族と共に気持ちの整理のお手伝い。</li> <li>・悩みに寄り添い、想いに共感し、同じ目線に立つ事で共に解決方法を探す。解決は本人が導き出すものと考え、それまでのお手伝い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなの広場」を借りて、がん経験者が「がんと一く」を開催。主催者はがん患者、家族、遺族の経験があり、県のがんピアサポート研修、グループケア専門など修了。来訪者の気持ちに寄り添い、経験を通して言葉を交わすことで、「自分だけではない」と気づき、また失敗談や体調維持の工夫など、知識ではなく実体験からの情報を生で交換する事が出来る場となるよう活動。</li> <li>・今年度は、書籍を取り入れ、情報発信の場としたい。</li> </ul>	みんなの広場 (おゆみ野3丁目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気になっても、今までと変わらない生活が出来るように周囲の理解や協力が得られ、病気になった人も家族も、独立する事なく住み慣れた街で安心して暮らせる事を望み活動を続ける。</li> </ul>	200,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん患者やその家族への支援に特化した当事者の視点に立ったきめ細かな取り組みが先進的であることを評価します。</li> <li>・今後、医療機関等へのPRを通して認知度を高め、講演会の開催など活動内容の充実を図ることにより、がん患者やその家族の不安が少しでも和らぎ、安らぎを持って暮らしていけるようになることを期待します。</li> </ul>
10	平山町内会	町内会での見守り活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の方が、自身の住み慣れた地域で安心、安全に暮らしていけるよう、高齢者の一人暮らし世帯の見守りを行うことで、異常の早期発見や困りごとの相談等に対応できるような体制を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしの高齢者世帯に対し、見守り方法を伺った上で、希望に応じた見守り活動を実施する。見守り従事者は、帽子、ジャンパー、名札を身に付けて活動を行う。</li> </ul>	平山町内会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の社会的孤立や孤独死等を未然に防ぐとともに、地域の中にお互いを見守るという意識が根付き、気になる方がいれば自然と見守っていく「向こう三軒両隣」の関係ができることを期待する。</li> <li>・また、この活動が平常時だけでなく、災害時等の緊急時にも活かされることを期待する。</li> </ul>	50,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進む地域において、安心して暮らせる町をつくるため、住民自ら地域内の見守り・支え合いの取り組みをしていることを評価します。</li> <li>・今後、日頃の見守り活動により災害時対応も可能となるなど地域の安心感、連帯感が高まり、地域の絆がより深まることを期待します。</li> </ul>
11	古民家 宙／そら	古民家 宙／そら再生プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上大和田地域に残る伝統的な田舎づくりの古民家と里山(裏山と畑)の再生を主目的とし、古民家や庭・畑の整備活動を通じた「体験」の場の創出を図るとともに、再生整備の過程を地域の人達や街の子供達とともに楽しみながら体験型ワークショップとして取り入れ、地域の再生を試みる。</li> <li>・地域住民への呼び掛けを強化し、ワークショップの講師、または参加者として活動に参加してもらうことにより、地域と密な関係を持った場にしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回程度、親子を主体とした体験型のワークショップを実施する。</li> <li>春 竹林整備、畑の開墾整備 → 作物の苗植え</li> <li>夏 古民家の修繕(雨戸や玄関修繕、トイレ修繕)、流しそうめん</li> <li>秋 裏山整備、畑の収穫、秋の食体験</li> <li>冬 裏山整備、古民家環境整備(障子張り、襖張り、神棚清掃と正月準備)</li> </ul>	古民家 宙／そら (上大和田町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粗削りなここにしかない古民家と里山の再生過程の体験を通じて街から来た子供達が、自然に抱かれ時間を忘れるほどに夢中に創造性あふれる時間の中で欲求を充足し、元気で笑顔あふれる光景を創り出すことで地元の活性化のきっかけを創り出します。</li> <li>・豊かな自然の中での昔ながらの生活を多くの子供に伝えながら、畑・里山の整備を継続的に地域住民と共に行っていくことにより、空き家だった古民家が地域の拠点として生まれ変わります。これにより、地域住民と街から来た家族連れや里山再生の専門家との関係構築が生まれ、新たなコミュニティを作りだし、地域の活性化に貢献することを目指します。</li> </ul>	200,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴団体の申込(地域拠点支援コース)につきまして、審査委員会において慎重に審査させていただいた結果、地域における拠点事業としては、地域住民等が主体的に活用する事業とは認められないことから、「地域拠点支援コース」の補助対象外となりました。</li> <li>・しかしながら、古民家や里山の地域資源を活用し、子供達とともに体験型ワークショップを行い、地域再生・交流に取り組んでいることは地域の活性化につながることを評価するとともに、今後、地域住民の関わりを広く得られるよう活動内容を充実させ、地域住民間の交流・活性化、町おこしにつながることを期待することから、「地域づくり活動支援コース」の補助対象経費及び補助金額の範囲内において支援することとします。</li> </ul>
小計							1,280,000	

## II 区テーマ解決支援コース

No	団体名	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	期待する効果・成果	交付決定額(円)	備考
12	土気フリースタイルライズ	土気スポーツ交流会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリースタイルフットボール、サッカー、バスケットボール、なわとびなどのスポーツを通して、大人と子供が一緒に運動をする機会をつくり、多世代で運動を楽しむ生き生きとした地域をつくること。</li> <li>・子供の体力低下の問題、大人の身体の健康維持にも関わっていくこと。</li> <li>・主な年齢層は、小学生～50代を対象とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリースタイルフットボール(サッカー)のリフティング中に技をするスポーツ)、サッカー、バスケットボール、なわとび、ヨガなどのスポーツを世代を超えて楽しむことができ、また、自分のできるスポーツと新たなスポーツに挑戦できるよ場を提供する。</li> </ul>	土気小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の大人同士、子供同士、大人と子供がつながりを持つようになり、生活に楽しみが増えること。</li> <li>・週末や休日により多くの大人と子供がスポーツをする姿が見られること。</li> <li>・子供が放課後にボールを持って生き生きと遊ぶ姿を見ること。</li> </ul>	49,500	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供を含めたスポーツを通じた多世代の地域コミュニティづくりを進める取り組みであることを評価します。</li> <li>・今後、幅広い年齢層のメンバー増加につながるよう活動内容のPRに努めるとともに、事業の実施に当たっては保険に加入するなど貴団体が掲げた活動趣旨・目的に沿った活動を行ってください。</li> </ul>
13	千葉ゴールボールクラブ	ゴールボール普及プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まであと2年半となりますが、市民にとって県内開催競技に接する機会が多いとは言えない状況に加え、パラリンピックに関しては身近に競技している人も少ない状況です。</li> <li>・県内開催パラリンピック競技の中でも誰もが様々な形で参加しやすい「ゴールボール」に着目し、競技の普及活動を通して、多くの方々がパラリンピック競技に親しみを持つきっかけづくりをしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールボールの練習、体験会を中心に活動をしていく中で区民の関心が高まるよう普及活動を行う。</li> <li>①定期的な練習・体験会</li> <li>②情報発信(活動報告、ゴールボールの紹介、ゴールボール関連イベント告知等)</li> <li>③勉強会(歴史、ルール、審判方法)</li> <li>④協力団体への依頼、意見の聞き取り等</li> <li>⑤見学者、協力者、体験者、参加者、メンバーの募集</li> <li>⑥ジャパンパラゴールボール競技大会の応援</li> <li>⑦ゴールボールオフィシャルクリニック受講</li> </ul>	緑区(メイン)、中央区、四街道市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールボールを通して、地域で障害の有無、年齢に関わらず、楽しい時間を共有できる仲間が増えていくことを期待します。</li> <li>・子供たちにも一人でも多く参加していただき、ゴールボールにはひとりひとりできることがいろいろあることを自然に学び、支え合う活動となることを期待します。</li> </ul>	100,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックの競技種目である「ゴールボール」の普及促進に取り組む活動であることを評価します。</li> <li>・今後、活動を継続し、団体の認知度を高めるとともに、パラスポーツへの区民の理解が深まることを期待します。</li> </ul>
14	おゆみのポッチャクラブ	ポッチャ体験会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年に開催される東京オリンピックに向けて多くの関心が寄せられている一方で、障害者スポーツへの認知度の低さから、同時に開催されるパラリンピックへの興味、関心が低い現状がある。</li> <li>・障害者スポーツ中級指導員の有資格者を中心に地域に向けポッチャ体験会を開催することを通して普及啓発を行い、障害者スポーツへの興味、関心の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポッチャ審判員の有資格者が規則等の講義をした後に体験会を開催する。</li> <li>①福祉施設の秋祭り開催時</li> <li>②医療機関で実施している健康教室・秋祭り等</li> <li>③シニアリーダー体操教室開催時(区内8箇所)</li> </ul>	おゆみ野地区内の福祉施設、医療機関、区内シニアリーダー体操教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子供から高齢者まで多くの人にポッチャの楽しさを知ってもらうことで、障害者スポーツに対して興味を持ってもらい、2020年東京オリンピックの盛り上がりにつながることを期待する。</li> <li>・障害者スポーツを通じて、障害者に対する偏見やイメージを変え、障害者が暮らしやすい環境のひとつになることを期待する。</li> </ul>	100,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックの競技種目である「ポッチャ」の体験を通して、パラスポーツの普及促進に取り組むことを評価します。</li> <li>・今後、幅広い世代への活動内容のPRに努めることにより、区民のパラスポーツへの理解が深まり、年代を問わず楽しめるスポーツとして普及することを期待します。</li> </ul>
小計							249,500	

III 地域拠点支援コース

No	団体名	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	期待する効果・成果	交付決定額 (円)	備考
15	みんなの広場	地域公益活動を支える拠点事業	・日常生活の中で、地域共有の課題を発見し、その解決のために新しい事を始めようとして、既に活動が軌道に乗っていても、その活動を継続的・安定的・かつ形骸化しないよう維持する為には、個々の団体や個人の努力以上にその活動を後押しする環境が必要である。多世代が集まって情報を共有しつつ発信し合い、共同で活用できる資源が整い、人材育成の機能を併せ持ちながら、楽しく交流できる場を身近な場所に作っていくことを目指して、みんなの広場を設置する。	①要支援高齢者を支える場、消費生活等に関する学習の場等、多機能の役割を持たせる。 →「すいようカフェ」の実施 ②子供達が安心して、若い人たちと話ができる場として発展させる。 →「子ども工作教室 みんなのおもちゃばこ」 ③高齢者の孤立を防ぎ、新たな制度を学び合うためのサロンや学習会の実施 →「ブラチナサロン」 ④懐かしい歌や抒情歌を声楽家の指導により、一緒に歌う。→「うたの広場」 ⑤不用品を持ち寄り、手を動かしながらリメイクする。→「手作り工房」 ⑥子育て支援の一環として、子育てママが主体的に企画するマルシェの開催 →「みんひろマルシェ」 ⑦少数者のためになくはない活動への場所の提供 →「がんとーくの会」、「金平糖の会」 ⑧地域公益活動団体への場所の提供 →「プロジェクト結」、「おゆみ野ウォーキングの会」 ⑨フェイスブック、ホームページ以外の紙媒体による情報誌の作成、配布 ⑩おゆみ野地域に定着している各種イベント活動への支援(さくらさくさくウォークラリー、ふれあい市、ほたるの道しるべ等)	「みんなの広場」 (おゆみ野3丁目)	・困難な状況にある人達の声やニーズを引き出して、互いに助け合うという風潮を醸成する。 ・孤立して活動していた団体やそのイベントが、互いに情報共有や連携することにより、企画力と実践力が高まり、団体や地域のクオリティが上がる。 ・企画運営者のノウハウの蓄積により、イベントのクオリティが高まり、参加・参画者が増える。 ・活動サポートの場が認知されることにより、新たなチャレンジをする人材が増え、地域や社会へ参画のハードルが下がり、より多くの人たちが地域運営に関わるようになり、地域が活性化する。 ・若者との連携により、地域に新しい風が吹き、子どもや高齢者が元気な地域になる。 ・地域で同様な居場所が増えていく。	1,200,000	様々な地域活動を行う団体等の拠点として有効に機能しており、地域に定着していることを評価します。 支援終了後も安定した事業運営ができるよう多角的な視点で創意工夫を図るとともに、活動の成果を地域に広めていくことを期待します。
						小計	1,200,000	

全コース合計

交付件数

15件

交付決定額 合計

2,729,500